

令和8年度 校内研究計画 概要

高島町立高島小学校

1 研究主題

『ねばり強く学ぶ児童の育成』

2 主題設定の理由

(1) 児童の実態から

本校の児童は、与えられた課題に対して真面目に取り組むことのできる児童が多い。しかし新しいことに興味を示して楽しみながら取り組む一方、主体的に学習に取り組む姿勢はまだ十分に備わっていない。課題から自分自身で「問い」を見つけたり、解決方法を見いだしたりすること、粘り強く学習に取り組むことについては十分とはいえない現状である。

授業において全員が課題に向き合い、粘り強く多面的に考える経験を積むことによって、学習面だけではなく生活面においても一人ひとりの児童が主体的に行動し、その子らしさが発揮できると考える。そこで、「ねばり強く学ぶ」ことを主軸にした本主題を設定した。

(2) 研究の成果と課題から

本校では、昨年度まで子どもたちの主体的な学びを追及し、自ら課題意識をもって参加する授業づくりに取り組んできた。「課題設定・対話・ふり返り」を重点に研究を進め、授業の中では主体的に考える子どもの姿や学習を深める対話、自己の成長をみとるふり返りをする姿が見られるようになった。しかし、研究を進める中で、児童自らが「問い」をもって課題に向き合ったり、粘り強く課題に取り組んだりする点において課題が見えてきた。

そこで、今年度からは、『ねばり強く学ぶ児童の育成』を研究主題に掲げて、「課題づくり・環境づくり・単元づくり」の3つを重点として研究を進めることとした。また、今年度も「カリキュラムマネジメントを取り入れた授業づくり」を取り入れ、教科横断的・合科的に指導し、児童の資質・能力を育むようにしていく。授業実践においては、昨年までの校内研究の成果を土台にして、今年度は「教師がめざすこと」と「児童がめざすこと」を設定し、それぞれをつなぎながら研究主題に迫ることとした。児童が「考えてみたい」「やってみたい」と思うような「課題」を設定し、学びの場を工夫することで、課題解決に向けてねばり強く取り組む児童を育てたい。また、失敗から学ぶ姿勢を育み、変化の大きい時代を生き抜くために必要な力を身に付けさせていきたい。

(3) 今日の課題から

現代社会は、予測困難な時代であると言われている。その背景には、科学技術や環境の変化など様々なめまぐるしい変化があげられる。特に人工知能（AI）の飛躍的な進化は、雇用の在り方や学校において獲得する知識の意味にも大きな変化をもたらすとの予測も示されている。

これからの時代に生きる子どもたちには、様々な情報を見極めて知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することなどが求められると考えられる。今後、子どもたちが社会に出て、様々な問題や壁にぶつかったとき、本校で培った自分で考える力や課題に対して粘り強く学ぶ力が生きることを目指し、本主題を設定した。

また、山形県教育委員会では、第7次山形県教育振興計画において、「ウェルビーイングを目指し、多様なあふれる持続可能な社会の実現を担う山形の人づくり」をかかげ、よりよい生活を送るために前向きに挑戦（チャレンジ）していることが重要であるとしている。そこに示された「目指すべき行動や考え方」・「県民みんなでチャレンジ」を念頭に置きながら校内研究を進めていきたい。

3 めざす子どもの姿

- (1) 「課題」から自分の「問い」を見つける。 (課題づくり・見つける)
- (2) 試行錯誤しながら仲間とともに考える。 (環境づくり・生かす)
- (3) 既習の学びや友達の考えを自分の学びにつなげる。 (単元づくり・つなげる)

4 研究の重点

今年度もカリキュラムマネジメントを取り入れていくことから全教科を対象に研究を行う。研究を深めるため、以下の3点を重点として日常の授業や研究授業に取り入れ、めざす教師の姿・めざす子どもの姿にせまる手立てを事後研究会や全体会で探っていく。

- ① 教科、単元の特性を生かし、児童が考えたいくなるような課題づくり
- ② 仲間とともに学び、間違えても安心して取り組めるような環境づくり
- ③ 多面的なつながり（既習の学び・他教科の学び・友達の考え等）を意識して学びを深められるような単元づくり

重点①②③を視点として、「目標－指導－評価の一体化」を意識した授業づくりを進めていく。その中で、めざす子どもの姿にせまるために ICT 機器の有効な活用を図っていく。また、7 教審で位置づけられているウェルビーイングの考え方を大切に、それが実現できるような校内研究を進めていく。

5 研究の内容と方法

- (1) 授業研究を通して実践研究を行う。研究教科は全教科とし、授業実践を行う。様々な場面での実践を通して、日常に生きる研究にしていく。
- (2) 学習の基盤となる資質・能力を育成するために、カリキュラムマネジメントを進めていく。
- (3) 理論研究を通して、学習活動のあり方を探る。文献や先進校の実践に学ぶ。
- (4) 教科の見方・考え方を働かせながら、児童の課題を解決していく授業づくりに努める。
- (5) ふり返りに書かせたい言葉や考えをもとに、単元計画や授業を作成していく。PDCAサイクルを生かした学習状況の適切な評価と、個に応じた支援の充実に努めた単元計画を立てる。
- (6) ICTを活用して児童の考えを可視化して交流を図ったり、ふり返りの記録や管理に生かしたりし、児童の学びが深まる活用の仕方を共有していく。
- (7) 研究授業を含め、OJT の形で全員が授業公開や模擬授業を行ったり、研修会を主催したりする機会を設ける。

6 カリキュラムマネジメントの推進

今年度もカリキュラムマネジメントを取り入れて授業づくりを行う。カリキュラムマネジメントの利点である教科横断的なつながりを大切に、全教科を対象に研究を進めていく。子ども達に付けたい資質・能力を明確にして、年間を見通し、教科横断的・合科的な学習を計画して充実させることで、教育活動の質の向上を図っていく。

そこで、全職員で時間を設定して共通理解を図りながら、子ども達に付けたい資質・能力を意識してカリキュラムマネジメント表の作成を行う。カリキュラムマネジメント表を作成することで、意図的に活動を仕組んだり、日々の授業を日常生活と関連付けたりすることができるようにしていく。また全職員で行うことで、同僚性の高まりやそれぞれの学年についての理解の深まりを目指していく。

7 研究組織

全体会	
研究推進委員会 ・企画、立案、連絡調整、研究会進行 校長、教頭、教務 大野（研究主任、低学年）、丸山（副研究主任、カリマネ主任、中学年） 青野（学習指導部長、高学年）、杉本（特支）	
学年部会 教科部 ・指導案検討 ・実践研究	
【下学年部】 大野 佐藤 加藤 丸山 松村 高橋 佐野 小野	【上学年部】 山口 後藤 青野 山田 仁瓶 阿部 杉本 水野 教頭

8 年間計画

月 日	種 別	学 級	教 科	内 容
4 / 20 (月)	推進委員会			令和8年度の研究の計画
5 / 15 (金)	全体会			研究計画、事前研・事後研のもち方など
5 / 29 (金)	カリマネ			カリキュラムマネジメントの進め方 1学期のカリマネ作成
6 / 17 (水)	学年部会	下学年部会		第1回事前研究会
7 / 15 (水)	全体会	3年2組	算数	第1回授業研究会
7 / 27 (水)	学年部会	上学年部会		第2回事前研究会
7 / 31 (金)	カリマネ			1学期の実践の反省、2学期分作成
9 / 9 (水)	全体会	5年1組	算数	第2回授業研究会
		4年2組	算数	
11 / 25 (水)	学年部会	下学年部会		第3回事前研究会
		上学年部会		
12 / 16 (水)	全体会	2年1組	国語	第3回授業研究会
		6年1組	道徳	
12 / 21 (月)	カリマネ			2学期の実践の反省、3学期分作成
1月中旬	推進委員会			今年度の反省、来年度に向けて
1 / 25 (月)	全体会			年間の実践の反省、来年度に向けて
1月下旬～2月上旬				来年度の方向性、研究紀要印刷・帳合
3月15日	カリマネ			3学期の実践・年間の反省

※全体研で授業をしなかった担任の先生方は12月までに小研を実施する。日程を週案に記載し、できるだけ授業を参観するようにしていく。(小研の授業の事後研は行わないが、授業の感想を用紙に記入して授業者へ伝える。)

研究の全体構想

